

事業所名		児童発達支援事業所 swallow				支援プログラム（参考様式）				作成日				令和7	年	7	月	8	日		
法人（事業所）理念		出来るところは自分で、必要なところは支援を受けて																			
支援方針		“子どもは大人より長く生きることになります” この当たり前だと思われる前提にしっかり目を向け、子どもが成人した際、親がいなくても生き抜くことができる力を育むために、今やれるべき支援を考え、療育を行います。																			
営業時間			8時		30分	から		17時		30分	まで	送迎実施の有無		あり					なし		
		支 援 内 容																			
本人支援	健康・生活	お子さまたちが生活に必要な基本的習慣（排泄、着脱、清潔保持、食事など）を身につけることを目指し、視覚支援や構造化された環境を用いて支援します。 将来的に自分の健康や生活リズムを管理できる力を育てるとともに、自分の状態に気づき言葉で伝える力を養います。 主体的な取り組みや成功体験を重ね、支えがなくても安心して生活できる力の基礎を育みます。																			
	運動・感覚	お子さまが自分の身体の動かし方や感覚の受け取り方を知り、日常生活を心地よく送るための基礎を育むことを目的に、粗大運動・微細運動・感覚遊びを通じて支援します。 身体への気づきや力加減、バランス感覚を楽しみながら育て、自分の身体と上手につきあう力を獲得していきます。 感覚特性に配慮した個別の活動調整を行い、安心して取り組める環境を整えます。																			
	認知・行動	お子さまが日常生活や集団場面での状況を理解し、自分の思いや行動を整理しながら適切に表現・選択・調整する力を育てることを目的に、認知課題、スケジュール支援、ルールあそび、問題解決場面のロールプレイ等を通して支援します。 視覚支援や予測可能な環境を整え、安心して取り組める中で、自己理解・自己選択・自己調整の力を育てます。																			
	言語コミュニケーション	お子さまが自分の思いや気持ちを言葉や視覚的手段で適切に表現し、相手とやりとりを行う力を育むことを目的に、語彙獲得、基本的な会話練習、感情表現、非言語コミュニケーションなどの支援を行います。 子どもの発達段階や特性に応じて視覚支援を活用し、安心して伝え合える環境づくりを行うとともに、言葉の楽しさ・伝わる喜びを経験する機会を提供します。																			
	人間関係社会性	他者との関わりに安心感を持ち、集団や社会の中で基本的なやりとりができる力を育むことを目的に、あいさつやルールのあるあそび、感情表現、SST などを通じて支援を行います。 視覚的手がかりやロールプレイ、ペア活動を取り入れ、お子さまが人との関わりを楽しみながら体験的に学べるよう配慮します。																			
家族支援		保護者の方がお子さまの育ちを安心して見守り、共に支えていくための環境を整えることを目的に、個別面談、家庭への支援情報提供、保護者交流の場づくりなどを通じて支援を行います。										移行支援		お子さまが就学後の新しい環境でも安心して生活し、自立的に学びに向かえるよう、日常生活の自立支援、学校生活への見通し支援、関係機関との連携を通じて移行支援を行います。							
地域支援・地域連携		必要に応じて関係機関と連携をとり、お子さまの現状に合わせた支援を行うことを大事にします。また、将来を見据えた支援を考え、関係機関の幅も広がっていくことを想定したうえで、連携を図ります。										職員の質の向上		日々のミーティングなど情報共有・支援の振り返りを通じて、チーム全体の支援の質を高めます。また、互いに学び合い、継続的な学びと連携を大切にす環境づくりを目指します。							
主な行事等		クッキング、制作活動、外出支援、生活発表会、季節に応じたイベント、SST 週間、言葉の力アップ週間、生活リズム見直し週間、保護者支援講座																			